

Hitsujigaoka

会報 羊ヶ丘

Vol. 73

2012. 6. 30



ライオンズクラブ国際協会 331-A地区

第2R・第2Z

札幌羊ヶ丘ライオンズクラブ



会長 照沼 司

会長退任挨拶

今期25代会長の重任を拝し、大変貴重な経験をさせて頂きました、その経験はとて大きく言葉にできません。

人生において生涯忘れられない誉れの思い出を皆様から頂きました。

周年の会長として、浅学非才の私が無事に会長退任の今日を迎える事が出来たのは、メンバー皆様の一方ならぬご尽力があったからです、衷心より深く感謝御礼申し上げます。

私は人生で会長と言う呼び名に全く縁のない男と信じていました。しかしPTA、そしてライオンズとこれが2度目であります。

会長職を担うたびに不思議に思う事があります。この役職だけは誰でもやりたいからといって自由に出来るものではありません。

反対にお受けしたくは無いのですが、順番として、時として意気を感じ、使命を感じ、愚直にお受けする。そのようなものではないかと思えます。

受けとめた時から始まる新しい取り組みが自分を成長させ人生を充実させていくのではないのでしょうか。

私は3年前にライオンズに入会させて頂きました、自負する事は一つ、唯の一度もNOと言った事はありません。すべてYESです、YESしか選択肢のないライオンズの文化のおかげで、この年になっても少し成長させて頂けた事を実感いたします。

つまり人生同様、あれこれと考え心配するより、素直に役職を受け、その役職の使命と責任を果たそうと真摯な努力をする事により、自然に身に備わるのが役職なのでしょう、又、その実体験無しではライオンズクラブを解する事は不可能であり、ましてや貴重なライオンズムの継承は出来ないと思う次第です。

さて、夏本番を向かえる7月、いよいよ第26期会長、山崎丸の出航です。

心から喜ぶと共に、次期会計として再び重任を拝する私は、微力ではありますが、会長と共に我が羊が丘ライオンズクラブの益々の発展の一助になる決意です。

今後ともよろしく願いいたします。

25年の歴史に感謝し、新しい未来へ創造の前進



今晚は、と言うが外は明るい



幹事報告も今日が最後、L山崎



会長挨拶より税務報告、L照沼

年次交歓ライガー

2012.6.26

今期最後の例会である。周年の節目としてスタートした今第25期であったが、6月26日の年次交歓ライガーで無事に収めとなった。

会長L照沼司に一年間のご苦労様と感謝の意を表したい。会長自身も言われていたことではあるが、入会3年の経験が浅いといわれる会員が会長となるのは初めてのことである。然しながら、ライオンズクラブという組織は、本来全てに於いて会員は誰でも平等とすることが規範となっていて何等不自然なことではない。

これぞ羊ヶ丘の流儀だと強調しておきたい。

さて、その例会である。締めめの例会ということで、夫人同伴と理事会で決し、その主旨で案内を流したが参加されたLは井上夫人と二村夫人の両名のみであった。幾分寂しい限りではあったが、ご参加頂いたお二方には、深甚の感謝を表したい。

出席者の全員が、年次交歓ライガーと言うことで少しは興奮している気味が感じられる。やはり、4月20日のチャーターナイト25周年記念例会が成功裡に終わった余韻を内に収めているのかも知れない。普段は淡々と例会を進めるライオン・テマーのL橋本さえも、立ったり座ったりと落ち着かない。食事はともかく、酒は十分に飲めたのだろうか。

会長の挨拶も堂に入ったものだった。衆議院で消費税引き上げ法案が可決されたされたことに相まって経営する会社に税務調査が入ったことを、楽しく真剣に話されたあたりは一年の経験がなせる業と大いに感心する。

交歓ライガーのメインイベント、新役員紹介と役員バッジの引継が行われる。現幹事が会長となり、現会長は会計を担務する。そして、テールツイスターだったL上西が幹事に就任と三役は見慣れた顔が来期も活躍する。強固な布陣と言える。敢えて活躍を期待せずとも、安泰と言って差し支えない。

ライオン・テマーのL岩本、テール・ツイスターのL堀岡には期待するところ大である。L岩本の落ち着いた物腰は、来期の例会が重厚な雰囲気醸し出すのではないかと予想される。また、CN25での記念祝賀会の司会を大いに盛り上げてくれたL堀岡のドネーション読み上げにより、金額もアップすること間違いなさそうである。

今期最後の例会も終盤となり、例により勸進帳を駆使するL上西のテール・ツイスタータイムに移る。普段は冷静な筈の彼が、L竹中のドネーションを読み飛ばすハプニングがあった。やはり、今宵はいつもとは違う夜だったのだと感じ入った次第である。

ゴングの引継がL照沼からL山崎に行われ、清澄な第一打が会場に響き第25期が厳かに終了した。皆様、お疲れ様でした。来期もよろしく。



L井上夫妻、表情硬いねL井上



優しく見つめる二村夫人



会長バッジの引き継ぎ



テマーL橋本、ご苦労さま

25年の歴史に感謝し、新しい未来へ創造の前進



地区ガバナーL 庵原の挨拶



来賓高橋知事の挨拶



アワードを受賞する会長L 照沼



受賞したアワード

第58回地区年次大会

2012.5.20

331-A地区の今年一年の活動を締めくくる年次大会が5月20日、ニトリ文化ホールで行われた。会場が広すぎたのか、空席が目立つ。ひと頃は同じ会場で2階席まで一杯だったことを思うと隔世の感がある。これも会員減少のなせる業か。

式典が始まる。ガバナー入場・国歌斉唱等につき、例の如く来賓と地区役員の紹介があり、さらに参加クラブの紹介が行われる。この辺りの進行は今までと全く変わっていない。延々と20分以上も紹介が続く。だんだんと拍手もまばらになってくる。拍手する方も飽きてくるのだろう。

来賓の挨拶も高橋知事は自分の挨拶を終えると早々に帰ってしまう。札幌市長は出席せず、挨拶も代理で副市長が行う。マンネリ極まりりと言ったところである。是非とも、来期こそは考えて欲しいものだ。ガバナーも今までと異なり、若返ることもあり期待したいものである。

当クラブにとって最も関心のある事項(としておく)のガバナーズアワードの発表では6個のアワードを受賞した。次の6点である。

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 青少年健全育成スポーツ振興特別賞 | 4. 書き損じはがき収集活動優秀賞 |
| 2. 震災支援活動優秀賞 | 5. 使用済みプリカ収集活動優秀賞 |
| 3. 使用済み切手収集活動優秀賞 | 6. 100%出席例会達成優秀賞 |

ここまでが、式典第2部としてある。

第1部は各種報告であるが、大半の発表者が大会誌を参照下さいと言って、引き下がる。

ガバナーズアワードであるが、後日書き損じはがき収集活動最優秀賞に該当するクラブが1クラブ抜けていたとの報告があった。数年前にも当クラブで同じようなことがあった。情報収集に対する配慮が欠けていると言われても仕方なからう。

第3部となって、次期ガバナーの紹介となる。正確には、まだガバナーエレクトと言う呼称である。前段でも記したが、54歳の若い美唄ライオンズクラブ所属L 渡辺修である。挨拶の内容からも、若さをアピールしたものとなっていて変化が期待できそうとの予感が得られた。

残念ながら、最後も今大会は芳しくなかった。記念講演会の1時間半の予定が30分に短縮されてしまった。如何にも式典運営の拙さが露呈してしまった。講師に対し失礼であるし、興味あるテーマであると感じた会員も多かった筈なのに。別の機会があれば拝聴したいと思った程だ。

テーマを記しておく。「縄文の心に探る人類の確かな未来」、講師：大島直行(札幌医大客員教授)。

懇親会場は、式典会場を上回る程の人数であふれていた。アトラクションは素晴らしかった。昔は若者だったオヤジ連中の熱き血潮をたぎらせるオールディズ。あちらこちらで存分に酔いしれている姿があった。

さて、来年の年次大会はどのように変貌するか。期待したい。



次期ガバナーL 渡辺



盛り上がったアトラクション



次期ガバナーと次期・現会長

● 五稜郭公園



五稜郭公園へ行く。昨年、復元された函館奉行所が見たくて行ったのだけれど、時間外だった。

今回はゆっくりと堪能することができた。寺院を想わず造りだが、望楼がある

ことで別の用途と分かる。五稜郭とは、この奉行所を守るために造られた城郭と知った。

五稜郭タワー（107m）にも登り、東京スカイツリーの6分の1の景観を楽しむ。

少し得したことも。公園向かいの道立函館美術館に駐車する。美術鑑賞するふりして、駐車券にスタンプを貰う。65歳以上は観覧無料の特典があった。高齢者の皆様、悪い事ばかりじゃないよ。

● タブレット

遂にというか、漸くというかタブレット端末を買った。

何に使うの？と家人に聞かれ、説明に窮した。大人のおもちゃ（あれとは違う）かも知れない。



アップルのiPadが余りにも有名だが、ここは日本製品愛用と言う事で、ソニー製品を買う。

家に帰り裏を見ると、そこに“MADE IN CHINA”の文字。ソニーよおももか。

● 芥川賞



7月になると下半期の芥川賞が発表になる。今年1月の芥川賞発表では、作品の中身よりも受賞会見の田中慎弥の言動の方が話題になった。

また石原慎太郎が選考委員を止めたことも取り上げられた。

最近の芥川賞は、難解を通り越して作者が何を言いたいのかさっぱり訳が分からないものが多い。

この作品も読んでいて、反吐が出そうだった。この処の芸人は、一発屋で終わることが多いと聞くが、芥川賞作家もその伝に洩れない。エロ小説まがいのものを書いて純文学とは情けない。慎太郎の「太陽の季節」も似たようなものだが。

● 中国人観光客



先に五稜郭に行った時も、中国人観光客ばかりだった。昨年に震災で激減したが、ここにきて回復している様子が肌で感じられる。

相変わらずマナーが悪いのも同じ。増えている理由が震災での落ち込み以外に二つある。

一つは、中国側の団体ツアーのダンピング競争。二つ目が中国国内旅行の高騰という。特に観光地の入場料がベラボウに高い。

観光地の入場料が一人5000円を超す処が幾つもあると言う。平均月収4万円程度の家庭で、家族4人で行けば、入場料だけで残り半月はカスミを食って暮らさなくてはならない。

これは施設入場料ではない。その地域へ入る金だそう。例にとると、知床へ行くのに斜里駅に降り立ったら、ハイ5000円と言われるようなもの。

● 日本のものづくり

NTTドコモの新型携帯電話の発表があった。全てスマートフォンばかり。



圧倒的な優位を保つのが、サムソンのGalaxy。国産のものが駆逐されている。

一部の評論家は、日本のものづくりは健在だ。精密加工分野では世界の追随を許さないとか、基礎技術は圧倒的優位にあると盛んに言っている。

ずっと昔、同じような輩が基礎技術はアメリカが勝っているが応用力は日本が上と言っていた。

一部の良さだけを強調して、まだまだ大丈夫と言っているようにしか聞こえてこない。

精神論だけでなんでも片付くと思っている。大本営発表と同じ。気が付いたときは丸裸の状態は沢山である。

円高だ、中国が脅威だと言っているだけでは何の解決にもならない。枝葉末節の部品性能ばかりを追うのではなく、市場性を見極めた商品開発をしようではないか。

今回俺が買ったソニーのタブレット端末だって、中身のソフトはAndoridでGoogleが開発したもの。製品組み立ては中国、これで国産と言えるか。

今期、5回にわたり連載した私のヨタ話もこれにて終了となります。皆様の視点とは随分と異なると思いますが如何だったでしょうか。感想を頂けると有難いです。



PR 委員長がんばる

L 井上 定幸

今期最終号の会報です。毎回、写真と記事の配分に苦勞してきました。作成する前は、2日もあれば出来るだろうと甘く考えていました。

実際に始めて見ると、難問が次から次と押し寄せてきます。記事を書くにあたって、初めの1行が思い浮かばない事が何度もありました。読み返して、全部を書き直した事もあります。改めて、新聞記者の文章作成能力は凄いと感じました。

年次大会の記事は、主観が入りすぎたかなとも思っています。このような見方もあることを感じ取って頂けたら幸いです。

来期のPR情報委員長は、L菅原に交替致します。チャーターメンバーでもあり、クラブの知恵袋です。今までと違った会報をお届けできると思っています。

1年間、ご協力ありがとうございました。例会の席で、この会報を食い入るように眺めて頂いた会員皆様の視線をととても嬉しく感じました。

最後になりますが、ご投稿いただいた皆様に心から感謝いたします。また全ての写真撮影を行って頂いた事務局員の見角さん、本当にお世話になりました。